

福島衛生新報

毎月三回発行
定価 一部五錢
福島縣平町長橋町五十六
編輯 佐藤 興全
印刷 佐藤 興全
發行所 福島衛生新報社
廣告料 一行三十錢
郵政指定 十 錢 増

童話の職分と

その發生心理 (二)

第四の 説は本能説で、こゝれは一番簡單で然も當を得た説であると思ふ、本能は何れの人にも共通であるが殊に自然民族は自由な本能をもつてゐる、某氏の「學校と社會」といふ食物の中に人間の創造的本能は次の様な四過程を経るものであるとある、即ち交話本能、探求本能、機械的本能、藝術的表現本能が之である、そこで童話は未開人の生活中に一番主題とされてゐる問題を以てするものが當然であると思ふ、次に童話の職分に就いて云ふと、今では童話は子供の精神の程とされてゐるが童話が生れた始めはより大きく廣い職分を持つて居たのである、第一童話は子供の心の爲に話の對象は決して三徳のみではなかつたのである、第二に童話は最初一社會集團の生活標準の基準になつたものであつて曾て未開人の心的機能を支配したものは總ての人類を通じて現在の生活の中に幾分かは生きてゐるべきものであるといふ意味から童話は又現代生活者も守つていゝ基準があると思ふのである、第三には新時代を作る青年男女の教訓となる事即ち原始人が個人的活動をしてそれが何等か社會に集團的の貢獻をなしてゐた事實や彼等は

なる人間の力では成し能はない事も神の力や魔術の力を信じてゐる事等を童話を通じて知らしめる事等は共に童話の職分である考へられる、自然民族の間にある童話はそれが散文になつてゐてもそこにリズムがある、これは

現代の 我等から見ると藝術的欲求からのみ生れた様に一寸考へられるがその根源は皆が寄り集まつて合唱しながら覺えるに都合のいいためからなのである、第四に童話は更に青年男女に地理的、歴史的の知識を教

死を待つばかりの痔疾を

蓮根の汁で治した私の喜び

平町 太田 茂

ふとした風邪が原因で、急に肛門に激しい痛みを覺え、その後、夜となく晝となく惱まされた事も珍らしくはありませんでした。一寸の身動きにもツキン！と針をさす様な痛みを感じ、色々の手當も效なく病勢は益々進むばかりでした。翌年の秋の末頃は、どつと床についたきりで太陽のめも見えず、身体は次第に衰弱して神經も衰へ、夜分はよく眠れず、恐ろしい夢ばかり見てこの世が無情と思はれて幾度か病弱の身を呪つた事でせう。人がよいと云ふことや、新聞雑誌の廣告など、田舎として

は手のとどく限りのことをいたしました。勿論醫師も此處を渡さずかへても見ましたし、効きそうな賣藥は殆んど用ひたつてみましたが、時には三四十圓もする機械を買つてはせめて痛みだけでもまぎらせばよかつたと思つてましたが、皆何の効果もありませんでした。終にはこの病氣で命を取られるのだらうといふやうに考へられて食事まで進まず衰弱と苦痛に攻められながら年を越しました。二月七日、この日は草野村へ用事に参りましたが、蓮根が時に変化よく効くことを聞いたのでございませう。けれど今迄に人のよいといふことは何でも試みましたが、少しも効果がないので自暴自棄になつて居りました。若しなかつたのです。けれど若しなかつたやうな氣もいたしましたが、十日程用をしましたが、別に効いた様でもなく、たゞ情性で甘日ばかり續けて居りました。すると何となく具合がよくなつて來ましたので、それによつて來た一心に飲み續けました。三ヶ月後には全く快くなつたのでございませう。早居られる方があります。早くこの蓮根療法をお教へいたして居る方がございませう。蓮根の用の方は、よく洗つて金おろしですりおろして、綺麗な布でしぼり、その汁を飲むのです。味は非常にあくつ

目丁五平
局藥邊野山

郎次東邊野山 師劑藥

町 平
院病濟共城磐

番一四六話電



目丁四平
店品洋屋鶴
番〇四一話電

見るからに感じの好い………
カフエーステージへ
自信を以つて皆様にた獎めてできるモダンな飲料や舌のたごる様な御召し上りものを是非一度御試下さい………
御散歩の折りに………御觀劇の御歸りに………
平 驛 前(電話七六五番)

新形を取揃へました
なかや洋服店に
平二丁目 電話二〇三番

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
平町 電話九番・一三九番

外科 専門
花柳病科
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番

食肉の御用は………
安賣王 深谷牛豚肉店へ
平驛前 電話五二四番

蓮根の汁で治した私の喜び (續)

蓮根の用の方は、よく洗つて金おろしですりおろして、綺麗な布でしぼり、その汁を飲むのです。味は非常にあくつ

蓮根の汁で治した私の喜び (續)

蓮根の用の方は、よく洗つて金おろしですりおろして、綺麗な布でしぼり、その汁を飲むのです。味は非常にあくつ

臺 所 の 衛 生

前北海道廳 衛生主事 故長谷川繁藏氏遺稿

どんな營養素をどれだけ攝取すればよいか

(一名保健標準食糧)

人の身体に食物の必要なることは前に述べた通りであるが、人は只食物でありさえすれば、そして腹一杯になるならば何でも構はぬと云ふ譯には行かぬ、身体の要求を満たすに足るべき營養分とそれに必要な分量とが備はらねばならぬのである、そこで我々の平素食べてる食品は、一品で全部の營養分を含んでゐるものは乳のみであつて、外の品は脂肪が多ければ含水炭素が少なく、含水炭素が多ければ脂肪が少なく、云ふ風に、或養分は在つても或養分は缺けてゐると云ふやうな物が多いのである、それであるから或一品のみを山食べても身体の要求を満たすことは出来ない、もし此要求を充たすに過不足があつては、眞の健康は保たれないものである、茲に於て人はどう云ふ營養分をどれだけとれば良いかと云ふことを知るのが必要である、獨逸の生理學者フオイトと云ふ人は中等の勞動を爲す大人で、体重約十八貫位ある者の一日分の保健食糧は左の如く要すると云ひ出した。

蛋白質 一一・八グラム
(二) グラム、我二分六厘(六毛)
脂 肪 五・六グラム
含水炭素 五〇・〇グラム
此總熱量 三〇五五・カロリー

(最も此外に水七合以上一升、塩一匁以上五匁内外を要す) フオイトの外に數多の學者の見積つた保健食糧もあるが、何れも皆フオイトのものを標準に取つて作りたるもの、大同

小異である、只僅に脂肪量が少なかつたり或は含水炭素や蛋白質の量が多かつたり、或は又脂肪蛋白質含水炭素共に幾分量のものもある、只ライケと云ふ人は蛋白質に於て一・八グラム、含水炭素に於て二・六グラム、少く脂肪は却つて四四・グラム、多いのが眼につくに過ぎぬ。

フオイトの標準は中等の勞動者たるミュンヘン人に就て實驗した上定められたのであるから、其の儘他國の人に適用すべきものでなく、殊に体重、年齢、習慣、氣候、勞動の多少及び其他の條件について斟酌すべきであるとなし、我日本人に對する保健食糧を定むるに當りては、先づ外國人との体重の差を見なければならぬ、歐洲人の体重は平均約十八貫位あるも日本人は約十三貫五六百目位に過ぎない、尙日本人は生來淡泊なる食物に慣れてゐる關係から脂肪を多量に積つてゐることは堪へられない、と云ふ理由で田原良純博士は日本人の保健食糧を左のやうに見積つた。

蛋白質 九六・グラム
脂 肪 二〇・グラム
含水炭素 四五〇・グラム

大正三年東京上野に開かれた大正博覽會に、日本結核豫防協會より出品せる保健食の献立品について見れば左の通りである。

社 告
營業部員貳名入用
御希望の方は御來社を乞ふ
福島衛生新報社

最新式 便所臭氣止 (二樽四五〇瓦入)
防臭 驅虫 イマツ 芳香油
●今津佛國理學博士發明
▲防臭、殺虫の効力
カンブラ油、片腦油の二倍
●芳香を發し ●南京虫は
●臭氣を止め カケルと
●ウジを殺す 即 死 す
【有=店藥】
◎大掃除には、衛生上
便所其他不潔の場所には非
本品をマカレよ!

衛生的感の好い
飯塚理髮店
(前署察警平)町屋紺

支那そば・西洋料理
平樂亭
(番三六七話電)町川新

局藥美佐字
伊マツ 驅取粉 (八音無害)
▲伊マツ 驅取粉 (八音無害)
家庭 害虫の 全滅藥
農作物の害虫驅除には 別にイマツ 殺虫劑あり
●噴霧器 原價提供
●カケルと 進呈
便所くさみ止
イマツ 芳香油 (四五〇瓦入)
●芳香を發し ●臭氣を止め ●ウジを殺す
◎大掃除には、衛生上 便所其他不潔の場所には非 本品をマカレよ!

平町四丁目 關内藥局 電話四十番
平町三丁目 佐川洋服店 電話四一八番
平町田町 高久病院 電話五一三番
平町四丁目 柴田書店 電話二三四番

平土橋 山崎合名會社 電話十番
平町三丁目 丸ほん家具店 電話三五九番

局藥美佐字 町田店賣販
伊マツ 驅取粉 (八音無害)
▲伊マツ 驅取粉 (八音無害)
家庭 害虫の 全滅藥
農作物の害虫驅除には 別にイマツ 殺虫劑あり
●噴霧器 原價提供
●カケルと 進呈
便所くさみ止
イマツ 芳香油 (四五〇瓦入)
●芳香を發し ●臭氣を止め ●ウジを殺す
◎大掃除には、衛生上 便所其他不潔の場所には非 本品をマカレよ!